

私と国有林

「箱根で森林ボランティア」

箱根KIKORIの会 麻生 和雄



姥子風倒跡地(記念撮影)

箱根芦ノ湖の周りには風で倒れた森や、手入れの遅れた杉、檜の人工林が点在しています。箱根KIKORIの会は東京神奈川森林管理署の協力を得て、これら風倒跡地の更新(森林再生)や人工林の間伐作業に取り組んでいます。

1997年、(特)地球緑化センターの森林ボランティア「山と緑の協力隊」の活動が箱根芦ノ湖風景林の風倒被害地で始まりました。この活動を母体として「箱根KIKORIの会」は生まれました(2001年7月)。



姥子風倒被害地(2005年)

箱根では大きな台風などで強風が吹くたびにあちこちで風倒被害が発生しています。風倒跡地の森林再生では、箱根の地に適した(箱根にもともと生育していた樹種による)広葉樹林の育成を目標としています。地拵えに始まり植樹をしています。数年は下草刈りを続けます。ここまでも実際にやってみると、森林再生のためにはどんなやり方がよいのか分からないことだらけです。植樹く育林を行って10数年になる

芦ノ湖風景林(箱根峠一帯の風倒跡地)、2006年以来森林再生活動を続けてきた姥子、このごろ再生活動の始った湖尻風倒跡地、同じ箱根でもそれぞれ少しずつ違った森の成長の様子が見られます。芦ノ湖風景林の風倒跡地は、箱根峠下の道の駅から山伏峠、三国山に至る登山道が稜線に出るまでの途中、道沿いに見られます。繁茂した篠竹とともに人を寄せ付けない手強い藪になっています。姥子風倒跡地は、鎌を持っていれば比較的容易に分け入ることができません。植えた苗木のほかにもいろいろな草木が育ち、動物の棲み処も見られ、賑やかです。森の成長段階としては、人間ならば言葉を話し始める頃の無条件にかわいい時期ではないでしょうか。



芦ノ湖西岸の間伐の終了した林内

日本は、一度森林が失われたところでも数百年で安定した森になるといわれています。私達はその最初の段階を風倒跡地で見ているわけです。風倒跡地と同様にあるいはそれ以上に入力が必要とされているのが手入れの遅れた人工林です。間伐候補地として紹介される杉、檜林は林床に下草もない暗い林です。林内に洗掘されたような沢ノ溝が見られるのはそのせいでしょうか。人工林は間伐などの手入れをこそ健全な森になります。

また、森林ボランティアで人気があるのも間伐です。木を伐る醍醐味が味わえ、植樹や草刈りに比べれば都会人にとって体験する機会の少ない作業といえます。間伐作業では伐倒方法や道具の使い方に工夫や熟練が要り、こうした経験の積み重ねで得られる技の向上も楽しみや励みになります(因みに活動参加者の平均年齢は60代後半)。

間伐は危険を伴う作業でもありません。参加する場数が増え、機械類の使用が増えるにつれ危険の度合いも増していきます。危険に対する備えは常に意識していなければなりません。

さて間伐の終わった林はその後どうなったか。実はあまり見に行く機会がないのです。そのうちじっくり見ようと思っています。